

知っていますか？ 南小のこと

校章にある「かしわば」
はどんな木？

それぞれの段階で適切な刺激（指導）を与えていくことが大事になると思います。もちろん、それは、学校だけでなくできることではありません。地域やご家庭と一緒に、なって子どもたちを育み、自立させていけたら素晴らしいことだと思います。

ただ、自立は、身体や心だけではなく、知徳体のバランスを考える必要があります。



校歌は誰が作ったの？

子どもたちは、6年間の小学校生活の後、中学校へと進学しますが、中学校は生活のリズムが大きく変わってきます。その変化に対応できるように、小学校時代に「南つ子のあたりまえ」を身につけさせ、卒業させたと思います。

大変お忙しい中に貴重なお話をありがとうございました。

教育特集号に携わって

校長先生、教頭先生より学校教育、南つ子への思いを間近で伺うという貴重な時間を頂きありがとうございました。先生のお言葉にありましたように、『南つ子のあたりまえ』を親子で確かめながら共に歩み、『明日を生きる力』にしていきたいと強く感じました。

(斉藤)

かしわば会

かしわば文庫としてご存知の方も多いと思います。毎年図書室へ本を寄贈いただいています。ただいま「かしわば会」の組織や目的について「かしわば会」総務担当の松尾博之様にお話を伺いましたので、紹介致します。

かしわば会の設立や会員の方を紹介して下さい。

松尾 平成16年に設立し、スタートしました。

会員は、PTA歴代の会長・副会長・現役の会長・副会長そして、在籍されている校長・教頭先生です。現在約50名の会員で活動しています。

目的について教えてください。

松尾 硬くなりますが、規約上は会員相互が研鑽を深め、心を一つにして南小学校児童の地域での学習への機会を与え、安全な教育活動ができるよう支援していく事。とにかく南小の子ども達の教育全般を支援していきたいという目的です。

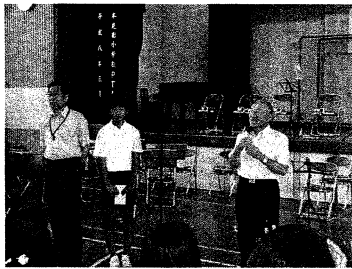
児童数が一番多かったのは？

資料によると、昭和34年の千六百十五人。現在の児童数の約2.7倍です。

毎年図書室へ本を寄贈していただき大変ありがとうございます。

松尾 会を設立して子ども達のために何ができるかを検討していた時、南小の図書率が48%と、とても低い事が気になりました。他の学校と比べてもとても低い数値です。

これは、児童数の割には本の数が少ないことで



かしわば文庫の贈呈式の様子

あり、子ども達が十分に本を読むことができないし、また、本を選べないということなんです。

そこで、子ども達に色々な本と出会ってほしい、たくさん本を読んでほしいという気持ちから、図書室へ本を贈りたい、本の種類は学校へお任せするという事で、今年で3年目になります。

図書室に「かしわば文庫」として子ども達が自由に選べるコーナーを設けてあります。

松尾 大変ありがたいと思います。もっとたくさん本を提供したいのですが、予算の関係等もありますので、今後も継続して、少しずつ増やしていきたいと思っています。

子ども達に喜んでもらえれば大変うれしいです。

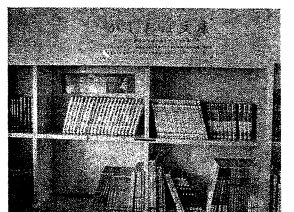
歴代の役員の方です。会としても色々な計画をされているのではないですか。

松尾 特色ある学校づくりや総合的な学習への支援活動ができれば楽しいなと思います。

私たち会員の中には、人生経験も豊富な人もたくさんいます。色々な特技を持っている人もたくさんいます。子育てを経験し、少し余裕が出てきた人もいます。そのよう

な人達が、子ども達のために何か役に立てるように人材支援ができれば、私達はとてもうれしい限りです。

必要があれば、今後そのような事にも喜んでお手伝いをしていきたいと思えます。



かしわば文庫

南小の風

「南小に吹く、ふるさとの心地よい風」は、学校地域そして保護者が一体となった事で、さらに後押しされ、吹き続けたのではないのでしょうか。

来年はPTA設立60周年の節目の年になります。これからも、よりいっそう連携して子ども達を育み、すばらしい南小の風が吹き続けていく事を願います。